東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

第10回アスリート委員会

１　日時

平成31年2月8日（金）14時00分～15時30分

２　場所

虎ノ門ヒルズ森タワー9階　会議室ＴＯＫＹＯ

３　出席者

＜アスリート委員(各委員は五十音順)＞

高橋委員長、河合副委員長、小宮委員、齋藤委員、関根委員

田口委員、萩原(美)委員、不老委員、松永委員、三浦委員

＜臨時委員＞

藤原臨時委員(内閣官房)、根本臨時委員(東京都)※代理

＜組織委員会＞

森会長、遠藤会長代行、武藤事務総長

伊藤ＣＦＯ、吉村総務局次長、村里国際局長

藤田アクション＆レガシー担当部長

４　議事録

○高橋委員長　それでは、定刻になりましたので、ただいまから第10回アスリート委員会を始めさせていただきたいと思います。

本日はお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

委員長の高橋です。今日はどうぞよろしくお願いします。

さあ、2019年になって来年には東京オリンピック・パラリンピックといよいよ迫ってまいりました。東京オリンピックまでは、本日を入れて533日。そして、東京パラリンピックまでは565日となりました。今年は各競技ともテストイベントが始まり、春にはもうチ

ケット販売とどんどん迫ってきております。また、その中で選手と会う機会も多いですけれども、各競技では選考会も既に始まっているところもあり、選手はもう来年に向けて全力で競技に励んでいるところです。また、そんな選手たちが思いっきり力を発揮していただけるように、私たちも準備やまた機運醸成に努めていきたいと思っております。

そして、本日の委員会ではワーキンググループ1、2の活動。そして、新規のプロジェクトである東京2020みんなのスポーツフェスティバルなどの議題について意見交換をお願いしたいと思っております。

委員の皆さんもこれまで以上にお忙しくなってくると思いますけれども、アスリート委員会として心を一つにして、ぜひ大会をどう盛り上げていくかを話し合っていければと思っております。

そして、2020年の大会の成功に向けて最後まで全力を尽くして、皆さんと一緒に駆け抜けていきたいと思いますので、どうぞ本日もよろしくお願いいたします。

（拍手）

○高橋委員長　ありがとうございます。

それでは、開会に当たりまして、森会長から一言御挨拶のほどよろしくお願いいたします。

○森会長　高橋委員長の何かこう、走られる姿を思い出しながら、お話を聞いておりました。大変御熱心に委員会の統率をしていただきまして、御礼を申し上げたいと思います。

委員の皆さんも本当にお忙しい中に、どうもこの委員会だけじゃなくて、お顔ぶれを見ていると、あちらこちらといろんな委員にお願いをして御意見を頂戴して、少しずつ東京オリンピック・パラリンピック、まとまりつつあること、御同慶の至りであります。

いよいよリレーの代替コースが各県から上がってきまして、あと微調整に入っておりますが、これをずっと細かく見ておりますと、一日見ていても飽き足らないくらいで、間もなく発表できることになるんだろうと思いますが、そういう具体的な相談事といいましょうか、動きをすることは多くなりました。また皆さんにいろいろと、その点についてもお世話になると思います。

今、高橋さんからありましたように、今年はそのほかにも6月からG20、大阪でやりますけど、世界の首脳の20カ国の方々がお集まりになる。恐らく半分以上は東京に来られると思います。そういう皆さんも、みんなこの東京オリンピックには大変注目をしておられるようであります。世界が大きくですね、何かこう乱れつつあるような感じがいたしますけ

ども、逆にオリンピックというのは世界をまとめ上げていく、一つになっていくという、そういう意味では、ますます平和の祭典として大事な行事だということをひしひしと感じる今日このごろであります。

それから、スポーツにはいつも我々ありがたく御指導もいただいてまいりました。天皇陛下がいよいよ御退位になられるというのも、寂しさですけれども、そこまでお考えがあるのかどうかわかりませんが、御退位になられたら、むしろどんどん積極的に大好きなスポーツを両陛下とも御覧になれればいいかなと、そんなことを僕らは希望をいたしております。

いよいよ、ラグビーのワールドカップも始まりますし、オリンピックのチケットも販売が始まりました。もう既にかなり要人から、大統領とかそういう方々から、ラグビーに行ったら入れるのかとか、オリンピックに行ったら、家族を連れていくんだけど大丈夫かだとか、そういう私信もたくさん来ますが、私なかなか返答し兼ねているものばかりでありまして、どこまでどうラインを引くのか、これも難しいことですが、それだけ大変関心、話題になってきたんだなと、こう思って喜んでおります。

我が国にとりましてこの重要な年は、国の行事のみならずスポーツの行事によって、またこれから異論する文化によって、日本の歴史が大きく節目を迎える、そういう新しい時代に入るんだという、そういう自覚をお互いに持って頑張れればなとそう思っております。特に若い皆さんの時代が来るんですから、ぜひそういう意味で御指導や御鞭撻、また御意見を賜れば大変ありがたいことであります。

それから、委員の皆様には募集の御協力をいただきました大会ボランティアにつきましては、募集人員を大きく上回る20万余りの方々、マスコミにはすごく厳しくいろいろ書かれたけれども、強制労働じゃないかとか、徴兵制ではないかとか、徴兵制って何だって聞く記者が随分いましたけれども。そういうことを越えてですね、多くの皆さんがお手伝いをしたい、手伝いしてほしいという方々が、本当に20万も超えて、残念ながら時間的に間に合わなくて途中で打ち切らざるを得なかったということで、大変申し訳ないことになっておりますが、それでも名称も、今度は参加された皆さんで、自分たちで投票して決めてもらって、フィールドキャストというのに決まりました。すてきな名前だと思います。

回収に御協力いただきましたメダルプロジェクトも、これもお陰様で目標の金属量が集まる見込みになってまいりました。いよいよIOC、IPCで承認をいただいた後に、夏にはメダルのデザインが発表されます。大体できておるんですけども、いずれまた皆さんに御覧

に入れることになると思います。とてもすてきなものになるんだろうと思います。

年が明けまして、今、高橋さんおっしゃいましたとおり、500日余りとなりました。6月からは今度は各競技のテストイベントが本格的に始まってまいります。組織委員会の体制の本番を見据えたレディネスフェーズにしていく必要がある、こう思っております。

そして、アスリートがベストパフォーマンスが発揮できる大会になりますように、アスリートの皆さんの御意見がますます重要になってまいります。

どうぞ、今日も限られた時間になりますけれども、御協力いただきました。また賢明な御意見をいただければ大変助かります。ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

（拍手）

○高橋委員長　森会長、ありがとうございました。

多方面で来年に向けていろいろな準備が進められているという話を聞くとともに、私たちも身が引き締まる、そんな御挨拶をいただきました。

さて、ここで組織委員会が進めているダイバーシティ＆インクルージョン、通称D＆Iに関する取組みについて、少しお時間をいただきたいと思っております。

事前に事務局のほうから資料をお送りさせていただいておりますが、改めて組織委員会のD&Iの取組みについて、簡単に御説明のほどをしていただけるでしょうか。

○吉村次長　それでは、総務局次長の吉村でございます。簡単に東京2020におけるD＆Iの推進についてお話をさせていただきます。

私ども組織委員会では、大会ビジョンとして多様性と調和を実現した東京2020大会の実施を目指しておりますが、そうした大会の実施に向けて、どうやってこのダイバーシティ＆インクルージョンを推進していこうということで、組織委員会の各部署から職員が集まりまして、3年前にプロジェクトチームを立ち上げまして、いろんな施策についてみんなでディスカッションしながら進めてきたところでございます。

ステップとしては四つのステップを考えました。まずは私たち組織委員会の職員自体がD＆Iを理解して、いろんな人が活躍できる職場をつくっていこう。第2のステップとしては、そうした意識を持って、東京2020大会の計画や運営にD＆Iの視点を反映させて、誰もが心から楽しめる大会にしていこう。そしてまた、組織委員会だけにとどまるのではなくて、さまざまなステークホルダーや関係機関の皆様にもそうした考えを共有していただき、最後に大会が終わった後には、この東京2020大会を契機として、そうやってD&Iの意識を

持った一人一人が新しいフィールドでD&Iを実践していただくと。そういうビジョンを持って取組みをしていこう、そういうことをみんなで話し合いました。

そしてまた、アクションワードとして「Know Differences, Show Differences. ちがいを知り、ちがいを示す。」そういうものを掲げました。互いの個性や違いを学び合っていこうと姿勢を持ちつつ、そういう個性や違いを誇りを持って示していける、そうしたゴールを目指していこう、そういうふうに考えながら取組みを進めております。

次ページにいきまして、具体的な取組みの例を挙げております。お手元にも配付しましたが、D&Iハンドブックという、これもみんなで話し合いながら、関係機関の皆様の御協力も得ながら、どういうところに配慮していったらいいんだろうな、どういうところの違いが実際にあるんだろうなと、そういうようなものをハンドブックとしてまとめました。これは今、着任した職員の方には全員に配布をして、こういうことをまずは知ってくださいねということでやっております。

そしてまた、接遇。実際にじゃあどういうふうに接遇をして、またサポートしていけばいいかということで、接遇&サポート研修というもの。こちらには障がいを持った職員自体が講師となって、こういうところに配慮してくださいねということを口頭で教えながら、そしてまた、実際にその場でいろんな実践をしてみながら、そういうサポートについて学んでいるところでございます。

またLGBT、セクシュアル・マイノリティへの取組みを評価するPRIDE指標というものにも応募しまして、昨年の10月にはシルバー賞、またベストプラクティス賞を受賞させていただいたものでございます。

今回、本日、皆様に御賛同いただいて参加いただくD&I宣言でございますが、こちら昨年の12月、世界人権週間の期間中に、改めてD&I推進についての意識の向上と、リーダーシップの重要性を認識しようということで、森会長以下、役員や局長以下皆さんに集まっていただいて、D&Iの宣言式というものを行いました。森会長には非常に1チームで頑張っていくんだという若い職員に対して特に励ましのお言葉をいただき、非常に若い職員も改めて気を引き締めて頑張っていこうという、そういうような取組みになったところでございます。

本日、皆様にもこうしたD&I宣言に御賛同いただき、またポスターのほうにもサインしていただけるということで、私ども事務局一同、大変励みに思っているところです。

引き続き、こうした取組みに向けて頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく

お願いいたします。

○高橋委員長　ありがとうございました。

非常に今、資料に基づいて簡潔に御説明をいただきましたが、ここで河合副委員長は、このD&Iに関する組織委員会のワーキンググループにも参加をされているそうですので、このD&Iの考え方や、また価値観においてどのように考えていらっしゃるかを、少し意見をお聞きしたいと思います。

○河合副委員長　ありがとうございます。

私、このワーキングの別の持続可能性に関するこの委員会のまたワーキングの中で、このD&I宣言についてお聞きをしました。そのときに、本当にすばらしい取組みだと思ったわけです。それを組織委員会の中だけでとどめておくのは本当にもったいがないなと思っておりまして、私、今、別の立場としてこうやってアスリート委員会という場所もありますので、こういうところでぜひ、いろんな委員の方々に御賛同いただけるのであれば、そういった形でほかの委員会にも広げたらどうですか。その最初にアスリート委員会という場でスタートしてはどうでしょうかということでお話をさせていただきました。

御存じのように、この大会のビジョンの大きなコンセプトの中に、全員が自己ベスト、そして多様性と調和、未来の継承とこの三つの大きな柱がある中で、この多様性を生かしていくこのD&Iっていうものをしっかりと意識して、当然アスリートもそうでしょうし、観客の皆さんやボランティアの皆さんやスタッフの皆さんが、そういう思いを持ってくれることによって大会も成功するでしょうし、その後の先にもつながっていく大きな力になると思ったからです。

本当に御賛同いただいて、今回こういう場もセットできたのは、私も本当にうれしく思っていますし、これを機に皆さんのまたお帰りになられた所属とか、さまざまな場所で、まさにこういう本当にいいことを皆さんで伝え合っていくことしかないと思っていますので、熱を持って熱い思いで語りかけていけば、少しずつかもしれませんけども変わっていくきっかけになると思いますし、そのきっかけがこのアスリート委員会とか組織委員会からまた発信できるということもこういうタイミング、機会だからかなと思っております。

以上です。

○高橋委員長　ありがとうございました。

私たちアスリートは、今まで世界で戦っていく中で、この性別、年齢、人種や国籍、障がいの有無、そういったことを関係なしにスポーツという場面で、皆さんと心の、魂の近

いところで戦ってきたという、そういった経験があるからこそ、きっとこの思いというものには非常に強い賛同や思いを重ねてもらえるところも多いのかなと思います。

なので、今の河合副委員長のお言葉もあったように、我々アスリート委員会としてもこのD&Iの趣旨に賛同して宣言をしたいと思うんですが、まだ少し理解が、ここはもう少し知っておきたいとか、このD&Iについて何か御意見があるという方がいらっしゃれば、どうぞ、もうこの皆さんの意見がないとすると皆さんで、同じ思いで一緒に宣言をしていただくということになりますが、それでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○高橋委員長　ありがとうございます。

では、先ほど御説明があったこのポスターにサインをさせていただいて、そして、ここから写真撮影に移りたいと思いますので、そこの分は事務局のほうで誘導をしていただきたいと思います。

それでは、ポスターを持ってこれから、皆さんがもう既にメッセージとともにサインをしてあるということなので、最後、私がサインをさせていただきたいと思います。

森会長は以前にもうサインをしてあるということなので、今回は私たちアスリート委員会のほうでサインをさせていただきまして、そして、これから少し写真撮影、記念撮影のほうに移らせていただきたいと思います。

（写真撮影）

○高橋委員長　皆さん、御協力のほど、どうもありがとうございました。

アスリート委員会の皆様には、ぜひそれぞれのフィールドで、このD&Iの価値観というのを広めていっていただきたいなというふうに思っております。

では、この議題1のD&Iについては以上となります。

それでは、恐れ入りますが、ムービーとスチールの方は御退席をいただけるようお願いいたします。

（プレス　退席）

○高橋委員長　それでは、これより議事に入りたいと思います。

お手元の議事次第を御覧ください。本日は議題が八つとなります。今、ダイバーシティ&インクルージョンが行われましたので、議題2からとなります。議題2、2018年組織委員会の活動報告。議題3、東京2020参画プログラムの現状。議題4、アクション&レガシーファイナルレポートということになりますが、それではまずこの議題2から4につきまして、

事務局より一括して御説明のほどよろしくお願いします。

○伊藤CFO　企画財務局長伊藤でございます。議題2から4まで一括して、ポイントを絞って簡単に御説明をさせていただきたいと思います。

配付資料のほうの9ページをお開きいただきたいと思います。2018年1年間の主な活動報告ということで10項目について簡単に御説明をさせていただきます。

まず、10ページを御覧ください。競技会場でございます。競技会場につきましては、既にそれぞれの全会場について会場を確定し、今その整備を進めているところでございます。整備、順調に進んでいるところでございまして、さらにアーバンクラスター構想なども具体の内容が進展をしているところでございます。

次の11ページ、12ページがオリンピック・パラリンピックそれぞれの競技スケジュールでございますが、これに関してもセッションオンスケジュールのほうは既に策定をいたしまして、現在、より詳細な詰めの作業に入っているところでございます。

次の13ページをお開きいただきたいと思います。開閉会式についてでございますが、開閉会式につきましては、演出企画の実施体制ということで、13ページの下のほうでございますが、野村萬斎様をチーフ・エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクターとする全体の演出体制のほうも確定をいたしまして、現在この演出家チームのほうに詳細な内容につき検討を進めていただいているところでございまして、これから、より具体の内容に入っていくという段階でございます。

次に、14ページを御覧ください。聖火リレーについてでございます。聖火リレーにつきましては、3月12日にギリシャ古代オリンピア市で聖火の採火式を行った後、3月20日に宮城県の航空自衛隊松島基地に、日本に到着をすると。その後、20日から25日の6日間、宮城、岩手、福島県で「復興の火」とし展示をした後、3月26日、福島県をグランドスタートの地としまして、ここから全国を回るというようなスケジュールを決定させていただいたところでございます。

さらにそれぞれの県内でどのようなルートを通るかというものは、今、関係の自治体を中心に検討を進めていただいているところでございまして、冒頭、森会長の御挨拶にもいただきましたけれども、大分詰まってきている段階だという状況でございます。

また、パラリンピックのリレーにつきましても、コンセプト「あなたは、きっと、誰かの光だ。　Share Your Light」というテーマを決めまして、それぞれの概要を公表し、多くの都道府県に御参画いただけるよう、今後調整を進めていくこととしてございます。

その聖火でございますが、聖火リレーが終わった後、集大成として聖火台に点灯されるわけでございます。こちらについては15ページを御覧いただきたいと思います。聖火台につきましては、式典用と競技期間用の2台の聖火台を製作するということを決定いたしますとともに、競技期間中の設置場所については、東京臨海部夢の大橋有明側を聖火台設置場所候補地とし、IOCへ今、提案をしたところでございます。

ちょうどこの左の図でいきますと、真ん中辺りの有明ジャンクションより少し下の辺り、武蔵野大学と書いてございますが、ちょっとこの夢の大橋がこの地図で見にくくなっているんですが、本当はこの左の緑の太い公園の橋のところがそのまま伸びているような形になって、その有明側のたもとというようなところでございます。右の写真、ちょっと夜の写真でございますが、ここにその聖火台が置かれるということで、非常に幻想的な雰囲気も醸し出しながら、IOCの皆様のほうからも最終案はともかく大変好評をいただいていると、高い評価をいただいているというふうな状況でございます。

次に、16ページを御覧いただきたいと思います。16ページ、大会マスコットでございますが、これも委員の皆様、御案内のように、大会史上初の試みとして、大会マスコットを小学生の投票で決定をするということで、全国の約8割の小学校に御参加をいただきまして、三つの候補の中からアに当たりますマスコットのほうを決定をしていただいたところでございます。これが、次の17ページでございますが、このマスコットにネーミング、ミライトワとソメイティというネーミングを決定をし、今まさに東京オリパラ大会の大使として全国各地を回っていただいているところでございまして、アスリート委員の皆様と一緒に、まさにオリンピック・パラリンピックの顔として、大変子どもたちにも好評、高い人気を博しているところでございまして、共演を今後ともぜひお願いできればというふうに思ってございます。

次にボランティアでございます。18ページを御覧いただきたいと思います。森会長冒頭の御挨拶にもございましたが、大会ボランティア総勢20万を超える御応募をいただいたところでございます。日本国籍64％、日本国籍以外36％ということで、非常にグローバルな中でたくさんの御応募をいただいたところでございます。現在、これらにつきましては、それぞれのボランティアの希望と、実際の活躍していただける場というものをマッチングする作業を進めているところでございまして、マッチングを進めながら今後、研修会等を行いながら準備を着々と進めてまいりたいと思ってございます。

そのボランティアのネーミングにつきましては、19ページでございます。私ども組織委

員会の大会スタッフとして御活躍いただく方はField Cast（フィールドキャスト）。そして、東京都等、都市のボランティアとして御活躍いただく方はCity Cast（シティキャスト）ということで、このネーミングについても、先ほどのマスコット同様でございますけれども、実際のボランティアを予定をされている御応募された方に御投票をいただくということで、みんなで一緒にネーミングも決めて、愛着を持って取り組んでいただくと。このような工夫をさせていただいているところでございます。

次にチケットでございます。20ページを御覧いただきたいと思います。史上最大級のチケッティングイベントということで、本当に多くのチケットを短期間で公平に配分、お手元に届けるということで、多くの注目を集めているところでございますが、先般、その開閉会式を含めた各競技のチケットについて、実際の価格を公表させていただいたところでございます。今後、今年の春以降、一般販売に進むために、さまざまな状況や整備、システム整備等を現在進めているところでございます。

次、21ページを御覧ください。「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」ということで、携帯電話や小型家電で使用しなくなったものを国民の皆様から御提供いただきながら、それを資源として再利用し、メダリストにお持ち帰りいただくメダルにしていくと。これもオリンピック史上初の試みでございます。

ちょうど今日この状況の発表させていただいているところでございますけれども、御覧いただきますように、昨年の10月末までの段階で、金93.7、銀85.4、銅100%ということが達成できたところでございまして、現在その後も回収を続けてございますので、今年度末には概ね金、銀、銅100%全て回収できる見込みとなりました。これも委員の皆様にも大変御尽力、御協力をいただいて、この活動を多くの方々にお伝えをいただいた、その成果だというふうに思ってございまして、3月末に一旦この取組みについては閉じさせていただきたい。御協力いただいた国民の皆様に本当に心から感謝を申し上げたいというふうに思ってございます。

次に、機運醸成に向けた全般的な取組みでございますが、その都度都度、私どもさまざまなイベントも実施をさせていただきながら、全国でも多くの活動を御賛同いただける主催者の皆様と一緒に展開をさせていただいているところでございまして、アスリート委員の皆様にもそれぞれの御都合の許す限り御協力をいただきたいということで、お願いをしているところでございますが、今後も引き続き全国で多くの取組みを行ってまいりたいと思ってございますので、こちらについても引き続き御協力をお願いできればと思ってござ

います。

次に23ページ、コアグラフィックスの決定ということでございます。大会を彩る、オリンピックと言えば、このマークだったよね、この色だったよね。パラリンピックと言えばこれだよねということは、どの大会でも大変鮮明に記憶に残る部分でございますが、東京大会を代表するグラフィックスとして、お手元のものを決めさせていただきました。

色につきましては、かさねの色目ということで、日本の十二単（じゅうにひとえ）（代表される色の組み合わせをモチーフとしながら、大会のエンブレムなども組み合わせて策定をさせていただいたところでございまして、これが2020年には街中に、また会場の周辺に大きく彩って大会に花を添えていただけるよう取り組んでまいりたいと思ってございます。

その次が、SDGsの取組みでございます。この大会は世界を変えるための、よりよい社会をつくるためのオリンピック・パラリンピック大会であるということで、国連が提唱しておりますSDGsの取組みと軸を一にすることがあるところがあるということで、私ども国連とも連携協定を結んでいこうということで、基本合意書を締結をして、今後も取り組んでまいりたいと思ってございます。

次に、25ページを御覧いただきたいと思います。東京オリンピックの公式映画でございますが、この監督には河瀬直美様に御就任をいただくことも決定をいたしました。さまざまな構想を既に検討を始めていただいているというふうに伺ってございますけれども、このオリンピックの記録、記憶、これを後世に伝えていくために、すばらしい映画をぜひ御制作をいただきたいというふうに思ってございます。

また、復興に関する取組み26ページでございます。先ほどのオリンピック聖火リレー、またはそれに先立つ復興の火なども含めて、このオリンピックの聖火リレーに関しては復興の一つのシンボルという形で、さまざまな工夫をしてまいりたいと思ってございます。会場につきましては、皆様、御案内のとおり福島のあづま球場、また宮城スタジアムを競技会場にするなど、さまざまな形で復興の支援に、後押しにもなるような、そして世界に復興した元気な姿を見ていただけるような工夫を今後とも続けていきたいと思ってございます。

最後に27ページ、大会経費でございます。今申しましたようなさまざまなことをとり行いますので、大会経費を大変一方では費用がかかる面もございますけれども、私どもその収支均衡、しっかり収入を確保しながら収支均衡を行うとともに、大会総額がしっかり抑

制をして、後に残る大会も同じようにできるようにと、こういうことも視野に入れながら経費の抑制と収支均衡を図っていくということで、V3の予算を昨年の末に策定をさせていただいたところでございます。

以上がこの1年間の、駆け足で恐縮でございますが報告でございます。

続いて、大会の参画プログラムの現状で、これも簡単に御報告をさせていただきます。29ページを御覧いただきますように、参画プログラム、オールジャパンでの参画を私ども推進をしてございますけれども、御覧いただきますとわかりますように、ごく一部まだ緑色のところもございますが、全国、本当に多くの取組み、御参画をいただきまして、黄色、オレンジ、赤と非常に各都道府県ごとを見ても多くの参画の取組みが広がってきて、この1年で本当に東京の大会、もしくは東日本の大会から、オールジャパンの大会に盛り上がってきているなということで、ありがたいことだというふうに思ってございます。

具体のアクション事例については紹介を割愛させていただきますけれども、これらの取組みの中にも多くのアスリート委員に御協力をいただいているところがあるところでございまして、重ねて感謝を申し上げます。

最後に、アクション&レガシーファイナルレポートについてということを簡単に御報告をさせていただきます。33ページを御覧いただきたいと思います。アクション&レガシーについては、そのプランを2016年に、このアスリート委員会の委員の皆様の御意見も参考にさせていただきながら策定をしたところでございますが、これらが着実にそのレポートを踏まえて実行が行われたかということを、大会後にファイナルレポートという形で取りまとめて発表していきたいというふうに思ってございます。

具体の構成としては、34ページのほうの構成で書いてございますが、全体構成の中で、特に第二章、スポーツ・健康というようなところについては、また委員の皆様からも大いに御意見を頂戴し、策定をしていきたいと思ってございますし、他の章のところにもアスリートの委員の皆様の御意見というものを反映することも、今後取り組んでまいりたいと思ってございます。

まずは大会の実施に向けて全力を尽くしてまいりたいと思ってございますが、それらの後にもそのレガシーが後々まで残ると、こういうことをしっかり私どもの視野に入れながら、それぞれの取組みを実施し、やりっ放しではなく、レポートを提出し、後世にも残していきたいと思ってございます。

説明は以上でございます。

○高橋委員長　ありがとうございました。

そういえば、ミライトワとソメイティもいろんなところで見かけるようになってきたなというような、みんなに本当に浸透してきたのかなという感じもしますし、都市鉱山からつくるメダルプロジェクトでは、ここでも何度も議題に上がりまして、銀が足りないのではないかということで、皆さん各フィールドのほうでの活動もしていただきましたが、全部がそろいそうだというようなお話も聞けて、非常に安心しました。

今、組織委員会のほうからオリンピック・パラリンピックに向けての活動が進められているという報告がされましたけれども、今の説明について何か御質問や御意見がある方がいらっしゃればどうぞ、どんな意見でもよろしいので。疑問に思った点などはないでしょうか。

それでは、続いて議題5に移らせていただきたいと思います。当委員会のWG1（大会エンゲージメント）の活動についてです。

それでは次の議題なんですが、アスリート委員会が関係する大会エンゲージメントの活動になります。こちらは私のほうから説明をさせていただきたいと思います。

ワーキンググループ、前回の1月、去年の1月の委員会以降のワーキンググループ1の活動を紹介させていただきたいと思います。

38ページを御覧ください。東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーの一環として、日本各地でフラッグツアー小中学校の訪問イベントを開催いたしました。私を含め穴井委員、河合副委員長、齋藤委員、上山委員、田口委員が全国の各地の学校の子どもたちと交流をいたしました。私も岐阜県のほうで参加をさせてもらったんですけれども、以前に穴井さんが、こういった参加をするところは自分の育ったところや関係があるところがやっぱりいいようということで、その意見も反映されているのかなというように、穴井さんは奈良のほうで活動、今回されましたけれども。岐阜で行った感想では、なかなかやはり東京のオリンピックということで、始めは岐阜のほうもなかなか盛り上がるのかなという不安があったそうなんですが、実際に行って活動すると、やはり子どもたちというのがすごく東京オリンピックに向けての関心を持ち始めて、すごく盛り上がったということで、大きく広めるところと、本当に実際一人一人の子どもたちや多くの人たちと向き合って気持ちを変えていく現場というのも必要なんだなというのを改めて感じました。

フラッグツアーに行かれた河合さん。講演会の様子はいかがだったでしょうか。

○河合副委員長　ありがとうございます。

僕は、鳥取県の知覚障がいの盲学校のほうに行かせていただきました。いろんな交流も含めてさせていただいたんですけれども、やはり、ちょうど9月だったんですけれども、ミライトワとかソメイティが決まった後だったので、そのぬいぐるみを持ちながら、実際の形とかそういったものに触れたりするような機会もできましたし、残念ながらちょっと台風の日に重なってしまったので、私のすばらしい泳ぎを見せられなかったことだけが残念で仕方がないなってところなんですが、本当にフラッグ振ったり、いろいろ交流したりすることもできて、非常に有意義なフラッグツアーになったと思っております。

○高橋委員長　ありがとうございます。

田口委員、子どもたちの交流はどうでしたか。

○田口委員　私も行くまでは、大阪は万博があるので、オリンピック・パラリンピックどころじゃないとか言われていたので、ちょっと不安になっていたんですけども、実際に行くと、私は4年生に授業させていただいたんですけど、もともと担任の先生がパラリンピックについていろいろ勉強されていたので、子どもたちもすごく興味を持ってもらって、講演した後もすごく質問とか、いろいろ聞かれました。

また、ソメイティとミライトワ、やっぱりよかったなと、マスコット委員だったんですけど、子どもたちに選んでもらってよかったなと思ったのは、すごく、選んだことによって身近に感じてくれていたんですね。ぬいぐるみを渡したところ、すごいみんなが、わーって喜んでいまして、私たちこれ選んだんですとか、みんなが関わっているっていうのを実感してもらえるということは、すごくよかったなと思います。

以上です。

○高橋委員長　ありがとうございます。

やはり実際の子どもたちの反応を聞くと、ここで決めたことが本当に、組織委員会で決められたことが非常に全国に伝わっているんだなという実感がいたします。

齋藤委員は、パワーリフティングの実演を子どもたちに見せたということですが、その様子はいかがだったんでしょうか。

○齋藤委員　あまり見ることのない競技を実際に見せることができてよかったなということと、実は私、ここ、自分の母校に行かせていただいたので、私と同じように田舎で育った子どもたちにとって、オリンピックっていうものが東京の遠いところでやるというものから、少し近く感じてもらうきっかけになったんじゃないかなというふうに思います。

また、後でこのバーベルをさわらせてほしいとか、持ち上げたいっていう子どもたちの

大行列ができて、本当にうれしい限りでした。

マスコットのほうも、学級で取り合いになるぐらい大人気のようで、校長先生からも、すごくありがたかったというふうなお言葉をいただきました。

また、本当は開催予定日が、西日本豪雨の影響で変更になってしまったんですけれども、日程を調整していただいて、開催をしていただいたことも本当に助かった、ありがたかったというふうな声もいただいております。

○高橋委員長　子どもたちの笑顔が何か今の話で目に浮かぶようです。ありがとうございます。

それでは、39ページを御覧ください。こちらは9月にパートナー企業と行われたイベントです。「わが街アスリート」ということで、大阪府出身の上山委員に参加をしていただきました。実はこのイベント、テレビでもCMなんかでしていますけれども、アスリート委員会で一番最初に、どんなことをこれから東京オリンピック・パラリンピックにしていったらいいですかって言った、そのアイデアが具現化されたイベントとなります。今後もこのような活動を継続して行っていければいいなというふうに思っておりますし、もしも皆さんにお声がかかったら、自分たちが出した意見が具現化されたんだというような意識を持って参加をしていただけるとうれしいなと思います。

そして、次のページを御覧ください。東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ開催前のイベントの一環として、東京国際フォーラムで行われたイベントです。齋藤委員がアスリート対談とパワーリフティングの体験に参加をしてくださいました。

このイベントの様子は、齋藤委員いかがだったでしょうか。

○齋藤委員　NECさんが行われたフォーラムだったので、本当にスポーツっていうものにかかわらず、たくさんの方が大きな会場に集まっていらっしゃいました。その中で、皆さんそれぞれの目的を持って来られた方々だったので、実際にこのブースの前に人が来られるのかという不安はあったんですが、実際に実演の時間になると、本当に多くの人が集まってくださって、ウエイトリフティング、それからパラパワーリフティングの実際の会場で山本さんと一緒に上げることができて、楽しい時間が私も過ごせましたし、会場の皆さんにも実際の競技を見てもらう機会がつくれたことは、本当に有意義な時間だったんじゃないかなというふうに思っています。

○高橋委員長　目の前で見る競技というのは、やはりそれだけ意識や興味も出てくると思

いますので、非常に貴重な対談をありがとうございました。

それでは続いて、43ページを御覧ください。組織委員会の取組みとして、子どもたちがスポーツの魅力で楽しく算数を学べる新教材として、大会の競技を取り入れたこの東京2020算数ドリルというのを作成いたしました。

その次のページもあわせて御覧くださいまた、渋谷区立代々木山谷小学校へ訪問して、実際に子どもたちと一緒にドリルを活用した授業を行いました。

私も廣瀬委員とともにドリルの作成に協力をして、実践学習に参加をしてまいりました。本当に子どもたちは机の上だけでこの算数を学ぶだけではなくて、一緒にグラウンドに出て、自分で60メートルぐらいだったんですけれども走って、その時速を自分自身の速さを計測していくというような勉強をしました。

実践することで、日ごろの生活でも生きるような算数を学べたんじゃないかなということと、ここにはスポーツ庁の鈴木大地さんが来られて、一緒に60メートルを走ったり、また、陸上の高平選手や塚原選手なんかも来てくれて。最後は競争を、リレーをしたんですけれども、今、世界に誇るリレーメンバーが小学生に負けたという、子どもたちはきっとそんなオリンピック選手に勝てたんだという夢を持って、これから陸上にも励んでくれるんではないのかなと思いましたけれども。そうやって一緒に実践することによって、算数というだけではなくて勉強に対する思いというのも変わったのではないかなと思います。

また、アスリート委員会で一番最初に皆さんにお話を伺ったときには、メジャーな競技が注目されるだけでなくて、実施する全ての競技を知ってほしいんだというような多くの意見がありました。この算数ドリルにおいてはいろんな競技を知ってもらう、また、もちろん、最初の問題は、全部答えを合わせてつなげると開会式は何日かというような日にちが出てくるんですけれども、そうやって算数とともにオリンピックに興味を持ってもらえるような形で勉強ができるということでは、非常に皆さんの思いも詰まった算数ドリルになったのではないかなと思います。

そして、第2弾がこの後にまたでき上がります。前は渋谷区だけで、渋谷区の中で配らせていただいて勉強をすることになったんですけれども、今回は少し広がりまして、東京都全域にこの算数ドリルを配らせていただいて、普段の生活の中で学んでいただこうというものです。今まだこちらは仮のもので、正式にでき上がるのはこの先になるんですが、この後、もし興味がある方は、ぜひ御覧ください。こういった形で、もし子どもたちに勉強を教える機会や、先ほどのようにどこかの学校に行ってというときは、ぜひこちらのほ

うも参考にしていただけるとありがたいなというふうにも思います。

今後もこのような活動を継続して行っていきたいと思いますし、皆さんから今まで出た意見を少しでも、やはり、2020までにしっかりと具現化できるような形で進めていきたいと思っております。

ただいま、ワーキンググループ1の活動について報告をいたしましたけれども、この中で御意見がある人はございますでしょうか。

じゃあ、村里さん、お願いします。

○村里局長　アスリートの方、本当にありがとうございます。このような形でエンゲージをしていただいて、各オリンピックのパートナーの人たちとこういうイベントをすることによってどんどん広がって、スポーツのすばらしさ、スポーツをやっていた人たちのすばらしさを体験、肌で感じたことはすごくよかったと思います。

一つ報告なんですが、この東京2020算数ドリルプロジェクト、このアイデアなんですが、JICA、青年海外協力隊のほうでこのようなアイデアをいただいて、アフリカのナミビアだったかな、のほうでこのようなアイデアを出して、アフリカのアスリートと、それから子どもたちということで、これは学習にスポーツの人たちが携わってやっていると。できれば、そういう人たちにこの東京オリンピックも理解してもらえればいいんですけれども、このスポーツの力ということをこの算数ドリルで紹介しているということで、一つ御報告させていただきます。

○高橋委員長　ありがとうございました。

私はJICAのオフィシャルサポーターもさせてもらっていますけれども、何とか今度、この数学プロジェクトを持って海外のほうに行って、算数なので、数字というのは全世界共通ということで、日本を飛び出して世界に伝えられたらいいなということをこれから考えていきたいと思っております。

皆さんもぜひ機会があったら、多くに広めていただければと思っております。ありがとうございます。

ほかに何か御意見ありますか。

それでは、議題6に移らせていただきたいと思います。

当委員会のWG2（大会準備運営）の活動について、続いて、河合副委員長から御説明のほどよろしくお願いします。

○河合副委員長　ありがとうございます。

池田委員が本日欠席ということで、かわりに私のほうからワーキング2の動きについて、簡単に説明をさせていただければと思います。

では、資料に沿って説明させていただきますので、御覧いただきながらお願いしたいと思います。

まず一つ目ですけれども、ワーキング2ですけれども、選手村でのロボット活用について検討を行ったということになります。この大会はイノベーティブな大会を目指すということで、選手村やいろんなところでロボットが活用できるかについて検討して、意見を出し合うということを行いました。これについては、まだ、こうしますという方向が決まっているわけではないんですが、今現在も調査、検討中であるということで御理解をいただければと思います。

続いて、リテンションプランというものがございます。御存じかわかりませんが、ボランティアの方々やスタッフの方々の、皆さんのやはり、やる気やそういった思いを継続させるためにリテンションプランというのものの計画を作成しながら続けるということで、進めていますと。こういった中で、どうすれば多くの皆さんにその気持ちを続けていただけるかということを、過去のやっぱり我々が大会に参加した経験からアドバイスを行わせていただきまして、実際にボランティアの皆さんが、長丁場になりますので、その期間も含めてどうやれば、なかなか、暑い中とかの活動もあると思いますけれども、そういう中で本当にこの大会に参加してよかったなと思ってもらえるかについて、我々としてのアドバイスをさせていただいたという経験がまずありました。

続いて、選手村計画に関するレビューという形で、5月に選手村のマスタープランというものが出ておりまして、それに対する進捗状況について説明を受けながら、我々としてのいろんな考えや思いをお話をさせていただきました。実際に車椅子の立場からも、田口さんとかからも坂道の、どこにできるんですかとか、そういった具体的な話も含めてありましたし、実際に食堂とかさまざまな場所の距離感とかこういったものを、自転車をどうやったら使えるかとか、そういったことも含めて細々といろんな、海外の選手が、過去の大会でこうであったので、こういうのはどうでしょうかというような意見を伝えながらつくり上げているというところになります。

やっぱり、我々の経験をこういったところでも十分生かせるように取り組んでいるというところになります。

続いて四つ目、D&Iのところになります。これは先ほども皆さんにも御協力をいただい

たわけですけれども、同じように、実際にこの組織委員会の中の方々に、あるいは、実際に大会に来た選手たちや障がいのある方々がいたときに、どのように対応すればよいかということを知っていただくための研修プログラムの開発ということで、それに対して意見をお伝えをするという機会をとりました。

それぞれの、当然、障がい者というふうによく言われますが、そういっても、やっぱり視覚障がいとほかの、車椅子の方や義足の方でも違いもありますし、知的障がいの方でも違いがあるということで、一律に言えないこともあるわけですけれども、とはいえ、それぞれの立場で、まず、こういうことは嫌なんだとか、逆にこういうことはうれしいんだという話をしながら、プログラムづくりのほうへ生かしていくという作業をさせていただいたということになります。

続いて五つ目ですけれども、国立スポーツ科学センター、JISSの見学ということで、宿泊や練習会場のチームとかにも参加をいただきまして、あと、飲食の方々にも来ていただきながら、まさに日本のトップアスリートが日々、使っている場所を知ることによって今回の東京オリンピック・パラリンピックという世界最高峰の大会の選手村であったり、練習会場の環境を考える上でのヒントとなっていただくということをねらって、こういった見学の機会をつくらせていただきました。実際に設備だけでなくさまざまな、運営のところでもいろんな御意見を交換をしながら進めることができたということです。実際にこういったところも見ていただくことで、すごくイメージが湧いたのではないかと思っております。

続いて、第2回NPC Open Daysの参加ということになります。実際の2年前の時期になりますけど、パラリンピックの2年前の時期に当たる8月に各国のパラリンピック委員会からもお越しになった方々と一緒に、会場や選手村等の視察を行わせていただきました。実際にアスリートとして、これまでに行った大会の立場から、同じ目線でそういった各国のパラリンピック委員会の皆さんとの意見交換をするということで、バスの乗り降りや、そういった経験等も通じて、食事をするとか、いろんなことを通じて、こういった意見交換をすることができたというふうに思っております。

続いて7番目ですけれども、アスリート委員会の広報打ち合わせということで、10月に実際のアスリート委員会の皆さんに、今後の広報活動をどうやって進めていけばいいかとか、そういったアドバイスや意見交換を行う機会をとらせていただきました。やはり、多くの人たちに、先ほどのさまざまなイベントもそうですけれども、やっていますが地道な

活動も通じて、こういったものをしっかりと進めていけばと思っております。

続いて8番ですけれども、NPC Experts Review会議という形で、IPC、国際パラリンピック委員会のこういったサービス担当者の方や、NPCの過去にパラリンピックを開いた国であったり、いろんな国々のベテランのこういったエキスパーその方々にお越しいただいて、実際の準備状況とかさまざまなところに、今どんな課題があるのかというのを皆さんで意見交換をするという場に我々パラリンピアンも参加をしながら意見交換を行ったということになります。

非常に具体的かつ、これは本当に意義のある会になっていたというふうに思っております。実際にどこまでのサービスをこれから提供するかということを皆さんとお話をすることになって、大きく貢献できているというふうに考えております。

そして、選手村のベッドサンプルについてです。御存じのように選手村には寝ていただくわけですけれども、そのベッドがやはりとても重要だと思っておりまして、そういった中でサンプルが、これが選手村の担当の部署のところに置かれているということで、そこに寝に行ってきました。寝てないです、寝っ転がり、座り、まああれですけれども、そこで熟睡はしていないんですけれども、硬さであるとか、いろんなものを感じながら、いました。私の感想を個人的に言わせていただくと、今まで行った中で、間違いなくいい眠りを提供できるんじゃないかなということだけでは、私の感覚ですよ、私の感覚なのでわかりませんが、本当にすごくいいと思いますと。

なので、そういうことも含めて、何が、どういいのかとか、自分たちの経験とか感覚ではありますけれども、そういったことをしっかりとお伝えをするような機会も提供いただいて、それに対してコメントをしながら伝えていくということもさせていただいたということです。

まさにワーキング2はこの準備状況をしっかりと、準備に対して、アスリートの経験や視点からこれを伝えていくという活動を地道に、さまざまな機会を捉えて参加してきたということになっております。こういった活動を通じて、しっかりとこれからも取り組んでいければなと思っています。

今年度の残りの活動になりますけれども、実際に、11月に行われた活動として、NOCの共同体のところへ、これは高橋委員長にも参加をいただいたということで聞いております。さらに3月にもまた意見交換の場ということで、選手村のほうも見ていければと思っておりますので、そういった活動を通じて、しっかりと進めていければというふうに思ってお

ります。

また今月になりますが、空港の荷物の搬入等についても、どうやったらスムーズなのか。例えばパラリンピックのレーサーですよね、車椅子のものとかどうなのかとか、カヌーの船とか、棒高跳びの棒とか、いろんなものがあると思いますが、そういったことも含めて皆さんと意見交換をしながら、実際の場所でのやりとりも含めて経験していくということで進めていこうと思っております。

ということで、次年度に向けてもまた今年度末までには、次年度以降のこういったワーキング2の活動も皆さんに明らかにしながら、皆さんにお伝えできればと思っております。

簡単ですが、以上です。

○高橋委員長　ありがとうございました。

ワーキング2（大会準備運営）ということで、池田さんを中心に河合さんや田口さん、いろんなところに行っていただいて、選手の意見などをなるべく反映していただくという形の活動をしております。本当は多くの皆さんに現場に行っていただいて、なるべく多くのアスリートの言葉を反映させたいというのがあるんですけど、なかなか皆さんとの、時間も、タイミングもということもありまして、本当に一部のアスリート委員の方々にかなり負担をかけているかもしれませんが、すみませんが、よろしくお願いいたします。

もうすぐ空港のといったところは、ワーキンググループ2のほうの池田さん、事務局のほうの方から、私のほうも意見をいただいたんですけれども、こういった機会で集まっていただける機会がありましたので、今日の終わった後、時間が少しまだある方は、その意見も選手の人たちの意見としてなるべく反映をしていただけるように少し御意見を伺いたいと思いますし、これから食事といったところの話し合いとかもある中では、なるべくこういった会った機会に、なるべく多くの人たちの意見を皆さんにちゃんと反映できる形で意見を聞いて、そちらのほうにも当てていきたいと思いますので。こういうふうに会えないときには、アンケートなどでお願いする機会もあるかもしれませんが、このワーキンググループ2のほうにもぜひ皆さん、賛同していただいて、御協力のほどよろしくお願いいたします。

今、ワーキンググループ2の活動を、河合さんからお話ありましたけれども、何か御意見や御質問がある方いらっしゃるでしょうか。

お願いします。

○藤田部長　池田委員のほうから、今日、御欠席なんですけれども、意見を預かっており

ますので、事務局から御報告申し上げます。

○高橋委員長　よろしくお願いいたします。

○藤田部長　2点ありまして、1点目は、大会中のアスリート委員の活動、こういったものも適切な時期に少し教えていただきたいなと思っています。大会期間中のこのアスリート委員会の委員の動き方とかそういったところも、適切な時期にいろいろ御相談させてくださいということと。これは、もちろん、皆さんと少し御相談させていただきたいと思っております。

それから2点目に、ボランティア研修で、ボランティアの方とコミュニケーションの機会を持つとか、こういった活動もぜひ検討いただけないかということでありまして。これはボランティアの方の研修の機会がありまして、そこでアスリートの委員会の委員の方に、何か激励をいただくとか、そういったことも考え得りますので、こちらもまた改めて御相談をさせていただきたいと思っております。

以上であります。

○高橋委員長　わかりました。

マラソンでもボランティアをたくさん募集して行うことが多いんですけれども、やはりその研修のときに、アスリートの声を届けるというのは、すごくその士気につながる部分が多いので、ぜひまた皆さんの御協力のほどよろしくお願いいたします。

また、今おっしゃられたように大会期間中のというと、もう本当にオリンピック・パラリンピックでは皆さん大忙しになると思いますので、できるだけ早目のプランといいますか、そういったものを出していただいて、皆さんの了承を得る必要があると思いますので、そちらのほうは事務局等々でスケジュールのほうをなるべく早くの確認をよろしくお願いいたします。

ほかに御意見ある方はいらっしゃるでしょうか。

村里さん、よろしくお願いします。

○村里局長　意見ではないんですが、この場をかりて感謝を申し上げたいと思います。

本当、国際局NOC/NPC部の中でワーキンググループ2をオーガナイズさせていただいていて、まずは私どもスタッフが、まずはアスリートはどういう方なのか、なんぞやということから教えていただきまして、それから各FAの人たち、選手村や会場の方々が本当に目からうろこみたいな感じで、皆さんの意見を聞いて勉強になることができました。それを身近に、各担当FAのほうに伝えさせていただいて、一歩一歩、皆さんの意見が、アスリート

ファーストとか、Acheving Personal Bestですか、に向けて準備ができていっているんじゃないかというように思っておりますので、本当にありがとうございます。

あと、事前キャンプがあるんですが、これは私ども組織委員会が直接やるということではなくインフォメーションをしています。オリンピックのほうは大体186ぐらいの自治体にいろいろなコミュニケートをやって、事前キャンプをやるようになってきているんですが、なかなかやっぱりパラリンピックの、障がい者の方のキャンプ地がなかなか見つからない。体育館だけはアクセシビリティなんだけれども、宿がやっぱりない。それから、そこに行くアクセスがないとかという、僕らの中でも非常に勉強になって、この機会に各自治体の方々も、東京も随分変わってきていると思います、本当に。けれども、各自治体のほうはまだまだなので、こういうのを通しながら、皆さんの御意見を伝えながら、やっぱり日本全国がダイバーシティ＆インクルージョンになるような、アクセシビリティになるようなことにつなげていければなというふうに思っておりますので。本当にこの9回いろいろ、河合さん、それから田口亜希さんも本当に出席率100％なのですが、本当にお忙しい中いろいろ御意見いただきありがとうございます。

ちょっと感謝の意を表したいと思いました。ありがとうございます。

○高橋委員長　ありがとうございます。

村里さんがおっしゃったように、やっぱりこの2020年を機に、本当に健常者も障がい者も本当に住みやすい日本になるためにといったところでは、やはりここでしっかりと競技会場だけではなくて、まち全体が少しずつ進んでいくこと、そして、しっかりそれが浸透していくことということにつなげられるといいなというふうにも思いますので。特に河合さんや田口さんは大変だと思いますけれども、そのために何が必要なのか、どういうことがあれなのかということを、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

○河合副委員長　田口さん、どうですか。100％参加している。

○田口委員　100％参加できていない。100％ではないんですけども、私たちやっぱり選手の立場のときは、でき上がったところにぽんと入って、パラリンピアンは特にそこで何ができるだろう、できることが何だろうとしか考えられなかったんですけれども、やっぱり自国開催となると、今まで自分たちが出てきた大会で不便を感じたこととか、こんなことがあったらいいなと思えたことを意見として反映させていただける。もちろん、予算とかいろんなことがあるので、できないこともあるかもしれないけど、言わないよりは言ったほうがいいかなと思ってですね、もしかすると、またかと思われているかもしれないです

けど、がんがん意見を言わせていただける機会があるということは、私たちにとってはとってもうれしいです。

○高橋委員長　お願いします。

○河合副委員長　ありがとうございます。

私、昨日までアジアパラリンピック委員会のほうに小林部長とかと一緒に行かせてもらっていたんですけれども、布村さんも一緒に行っていただいたりしながら行きましたけれども。そこで組織委員会としてもこの2020の取組み状況の報告がありまして、その中でもこのアスリート委員会がしっかりとこういった声を届けながらアスリートファースト、あるいはアスリートセンタードの大会運営を目指しているんだ、準備をしているんだということを言っていただいたんですよね。

すごくそれはありがたくで、我々も、今、私がAPC、アジアパラリンピック委員会のアスリート委員という立場もあるんですけれども、まさにそこの声も届けているのをこういった見える化していただいたこともとても大きかったと思いますし、ほかの今後のさまざまな総合大会の準備とか計画をしていくであろうさまざまな都市とか組織委員会に対しても、こうやっていくんだねという、すごい、いいお手本を示すことにつながっているんではないかなというふうに今回の、ほかの大会の準備とか、そういった計画とかのプレゼンを見ましたけれども、やっぱり明らかにこの東京のこの取組みは際立ってよい取組みだったなと、何か自分事のようにですけれども、とてもうれしく思ったという報告です。

以上です。

○高橋委員長　ありがとうございました。

何かほかに御意見や質問ありますでしょうか。

それでは、議題7に移らせていただきたいと思います。東京2020みんなのスポーツフェスティバルについて、ページは61ページを御覧ください。

この東京2020みんなのスポーツフェスティバルについて、事務局のほうから説明をお願いします。

○藤田部長　アクション＆レガシー部の藤田と申します。昨年4月からこのアスリート委員会を担当させていただいております。どうぞよろしくお願いします。

それでは、資料61ページから御覧ください。

まず、このプロジェクトの内容でございます。かわいらしいミライトワ、ソメイティのロゴマークがありますけれど、これがこのフェスティバルの象徴的なロゴマークになりま

す。ちょっと微修正が入りますので確定ではないんですけれども、こういうイメージで考えております。これは全国の学校にお配りをしたいというふうに思っております。

この事業は簡単に申し上げますと、この62ページの下のパラグラフに書いてございますけど、学校の運動会等を通じて、東京2020大会への参画意識を高めるということと、それから、ぜひ運動会で、オリンピック・パラリンピックに関連した取組みを実際にやっていただいて、それを公募しまして、審査して、すぐれたものは表彰し、そして公式サイト等で公表していくと、こういう内容になっております。

この事業を通じてスポーツの力や価値を学びながら、何より運動会を楽しんでいただくということを期待して行う事業であります。いろんな学校の創意工夫を凝らしたアイデアをやっていただければ、これをぜひ、全国に広く情報発信をしていきたいと、こういう事業であります。

めくっていただきまして、63ページ目でございます。今申し上げたようなことが目的でございますけれども、何より東京2020大会が終わった後以降も、この学校の運動会でいろんな工夫を凝らしたプログラムが行われる、あるいはパラリンピックの精神、競技に触れる機会を創出していただく、こういったものをレガシーにしていきたいということも目的の一つであります。

応募が想定されるプログラムの例としてはここに、本当にごく一部ですけど、四つほど書かせていただいておりますけども、このようなことが、実際に実はこれは学校で行われているプログラムなんですけれども、こういったことを広く全国の学校で、運動会で行っていただければなというふうに思っております。

この事業の対象となる学校ですけれども、東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校、要は「よういー、ドン！スクール」、こちらの学校が対象となるということでございます。

めくっていただきまして65ページ目。このプロジェクトの体制ですけれども、組織委員会とアスリート委員会で主催をいたしますが、後援としてスポーツ庁様、昨日ちょっとお願いに上がりましたけれども、後援をいただける予定でありまして、あと、日本オリンピック委員会様、日本スポーツ協会様、それから日本障がい者スポーツ協会／日本パラリンピック委員会様から後援をいただける予定、もう既にいただいている団体もありますけれど、予定になっております。

この事業、運動会は御存じのとおり春と秋にございまして、合わせて大体1,000校ぐら

いから応募をいただければなというふうに思っておりますけれども、その中で審査を行いまして、まず一次審査で大体50件ぐらいのプログラムを選び出しまして、最終審査ということで、このアスリート委員会であるとか、あるいは後援をいただいている団体、そういったところから審査の協力をいただいて、最終的には10件ぐらいの優秀賞を選定したいというふうに思っております。

優秀賞、あるいは後援名義をいただいている大体の賞とか、そういったものをいただけるように今、調整をいたしております。そして、優秀賞を受賞された学校には表彰状と、それから副賞として特性のバトンを差し上げられればなというふうなことで今考えているところでございます。

続きまして、そのスケジュール的なものですけれども66ページ。これは春の運動会を想定したものでありますけれども、今日この委員会で皆様の御承認というかいただきましたら、2月中に、2月の下旬ぐらいに公表、プレスリリースを行いたいというふうに思っております。

この事業は、運動会で実施した後に応募申請をいただく形になっておりますので、大体5月から7月ぐらいに学校から、この事業への応募をいただいて、8月、9月で審査をして、10月に表彰すると、こういった流で考えております。できれば春の運動で500ぐらいの、まず半分ぐらいの学校に応募をいただいて、優秀賞を10校選定をする。

めくっていただきまして67ページ目。春の運動会で1回やってみて、どんな流れになるかを確認した上で、秋の運動会の募集も開始をしたいと思います。大体、春と同じような流で今のところ考えております。

7番のその全体のスケジュールを考えておりますけれども、この事業は一応2019年度の事業でありまして、やはり2020年の春の運動会を、オリンピック直前の運動会を全国で盛り上げていきたいというふうに思っておりますので、またその辺もいろいろ今後考えていきたいというふうに思っております。

私からの説明は以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

○高橋委員長　ありがとうございました。

このみんなのスポーツフェスティバルについては、今までもワーキンググループ1のほうで集まっていただいて御意見を頂戴いたしました。なかなか時間が合わなくてそこに参加ができなかった方もいらっしゃると思いますが、これが、65ページの一番上を見てもらってもわかりますように、主催が東京2020組織委員会と東京2020アスリート委員会という

ことで、皆さん自身が非常に核となるということのイベントになることを、まず胸にしっかりととどめてもらいたいなということが一つです。

その中で、5、6の表彰までの流れという、春と秋、500校、500校、1,000校と、非常に非常に高い目標を立てました。今から2月でその春の段階で500校集まるのかなという少し不安もございますが、その中でこの間のワーキンググループでも幾つかの、皆さんへの提案や意見交換をさせていただきました。その中には、動画をつくって、私たちアスリート委員会からのメッセージなんかも含めて、各運動会の冒頭で流していただいたり、この組織委員会としてオリンピック・パラリンピックにつながっていくんだよというようなことを実際に皆さんに感じていただけるような演出を少し考えたらどうかという意見があったり。また、ポスターを皆さんでつくってもらって、ポスターを審査をしたらどうだということや、また、旗をそれぞれつくっていただいて、旗をまた審査の中に入れて。そういったつくるもの、書くものというのは残りますので、最後にこの運動会を通じて非常によかったポスターや旗なんかを東京駅の近くに貼り出したりとか、皆さんの中で機運醸成の中で、子どもたちがこれだけオリンピック・パラリンピックに向けて取り組んでいるんだよということを皆さんに知ってもらえるような機会があったどうかと、そういった意見もたくさん実はいただいております。

なるべく、本当に、私たち全員が各運動会に行くことは多分もう実質的に無理だろうという思いますので、その中でどうやって関わっていくのか、そして盛り上げていくのかということを、これからもワーキンググループ1を通じて詳細に詰めてはいきたいとは思っておりますが、皆さんの中で、今年こういった行事があるんだということを知っていただきたいなというふうに思っております。

何か御質問や御意見などがありましたら。

じゃあ、田口さん、お願いします。

○田口委員　御説明ありがとうございます。

私もワーキンググループに出させていただいて、そのときも申し上げたんですけれども、ぜひこの運動会を2020まででではなくて、2020以降も各学校がこういうことをやったんだとか、それをレガシーとして残してやっていただけるようにそういう工夫をぜひ入れていただきたくてですね。

そういう意味では審査項目ですね。ここに目的と書かれていますので、それに沿う部分もあるとは思うんですけれども、その項目の中に、子どもたちがいかに主体的に動いたの

か、子どもたちが先生に対して意見をやって、こういうことをやりたいとかですね。子どもたちの意見とかをどういうふうに反映されているかという部分もぜひ審査項目に入れてどんどん、マスコットと同じですよね、子どもたちって関わったことはすごく覚えてくれているので、それが彼ら、彼女らが10年後、20年後、大人になったときにすごく思い出に残るような、そういう取組みというか、仕組みにしていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○高橋委員長　前回のワーキンググループ1のほうでもいろいろ意見もありましたけれども、今日、初めてこのプロジェクトを聞いたという方も中にはいらっしゃると思います。もう2月には公募を開始するということでもう差し迫っておりますので、こういう意見があればもっと盛り上がるんじゃないか、また、今の田口さんのように、将来につながるんではないかというものがございましたら、そちらのほうの御意見もよろしくお願いします。

今の段階ではこのプログラム例などがありますが、どんなことを審査基準にされたり、前回出たビデオであったり、ポスターまた旗などはどういう形で事務局のほうは考えていらっしゃるかという方向性を聞いてもよろしいでしょうか。

○藤田部長　募集要項の詳細を今つくっているところでありまして、皆様からいただいた意見をこれから少しずつ反映していきたいというふうに思っております。

具体的に審査基準のところは、もちろん子どもたちの視点を入れていく加点も考えたいと思っていますし、しかし一方、審査基準を少し、ハードルを少し緩やかにして数多くの方に御応募をいただけるような、そんな工夫も考えております。

各プログラムでやっていただ……、例えば委員長からいただいた各クラス対抗の応援旗をつくったりとかですね、そういったものも取り上げていければ、それを全国に発信して、全国でいろんな応援旗ができるというような展開も考えられますので、そういった仕掛けも事務局のほうで少しずつ考えていきたいと思います。

以上であります。

○高橋委員長　田口さん、どうぞ。

○田口委員　500件ぐらいということで、募集をということで、予算とかいろいろあると思うんですけど、せっかくアスリート委員会も主催となるわけですので、何かアスリート委員会のみんなの、応募してくださったところには何か、サインの何かポスターを送るとか、何かできたらいいのかなと思います。お願いいたします。

○藤田部長　はい。よろしくお願いいたします。

○田口委員　写真とか何か。

○高橋委員長　何かほかにも御意見がありましたら。

　じゃあ、萩原さん、お願いします。

○萩原（美）委員　先日のワーキングにも私、参加させていただいたんですけれども、あのときもたしか旗とかポスターとかをつくって、オリンピックの会場でしたっけ、何か開会式がある、そういう参加するオリンピアンの人たちが目にできるようなところに飾れるといいねというお話をしていたような気がするので。東京駅もそうなんですけど、会場とかがいいなとか、何か子どもたちがつくったものが、オリンピアンの、参加する人たちが目にするようなところにあると、またちょっとそれも励みになるのかななんていうふうにも、あの意見は非常にいいなと思って聞いていたので、ぜひ御一考ください。お願いします。

○高橋委員長　運動会だけではなくて、その後につながる形の部分も検討しながら、2020年につなげていけたらいいなというふうに思います。

　じゃあ、三浦さん、お願いします。

○三浦委員　本当にこれはすごい、頼もしい計画だと思います。あと、やっぱり子どもたちというのは実際に行って、オリンピックという、こういうワーキングで行って、実際に体験してもらうとかでしか今までは多分、広めていくはできなかったんですけど、行かなくても東京2020をうまくみんなで、全国隅々まで、こういう参加するということで、やっぱり自分たちもこういうことで参加できるんだということで、本当に近づいてくるなというのがこれですごく感じられると思うので、すごく何か楽しみだなと思うんですけど。

　あと、これって企業とかにもできないですかね。企業の運動会にも、やっぱり今、子どもたちの視点でなんですけど、全国のそういう企業とかいろんな団体、一般というんですかね、一般の方々の運動会にも広めていけたら、何かもっとすごく。今の段階ではちょっと難しいかもしれないですが、2020の時点でそれが何かうまく、この運動会とともに並行してすごく盛り上げて。やっぱり、全部で本当に盛り上がっていけたらいいなというのがあるので、お願いします。

○高橋委員長　ゴールドパートナーのしている、スポンサーの運動会も非常に盛り上がるんですけれども、やっぱり各企業といったところにもし広まっていくと、スポーツと健康という、私たちのこの意義というものにはすごく結びついていくのかなと、子どもたちや企業の人たちのスポーツ人口を増やしていくといったところでは、そういったところまで

広まっていければというのは、本当に理想といいますか、目指していきたいなと思っています。

どうぞ。

○三浦委員　すみません。今ので本当に、私の企業、勤めている会社も大体6,000人の方々がいて、お昼の時間になると、もう1時間しかない時間の中で、着替えて、もう御飯も食べずに走り回っているという、健康のためにという方々が多いので。やっぱりこういう、本当にちょっとしたことで、こういうきっかけを投げかけることで、それが融合して本当にいいものになっていくんじゃないかなと思うので、そういう観点でも本当に広めていってほしいなと思います。

○高橋委員長　ありがとうございます。

どうぞ。

○河合副委員長　アスリート委員会発ということなので、本当はそういった、500校全部は当然行けないと思っていますけれども、やっているところを見に行けるのはもちろんいいと思いますし、選ばれた10校は手分けしてとか、アスリートがやっぱり行って表彰してあげるとか、ということでも何かまたできるのかなと。もちろん、一堂、集めて、表彰するという形を考えていたかもしれないですけど、そういうのも検討いただいてもいいのかなと。多分そうなると、校長先生が来て終わっちゃうんですよね、大体ね。大体のパターンはそうだと思うので。それは多分、もらってきたよと校長先生が言うだけだと思うので、そこをもう少し盛り上げていくには、やっぱりサプライズ的に、高橋委員長が行ったとか、古宮さんが行ったとかというように行かれるといいんじゃないかなとちょっと思いましたという。

以上です。

○高橋委員長　ありがとうございます。

では、ほかにも多分、胸に秘めている思いはあると思いますが、じゃあその意見は、後ほどこのアスリート委員会が終わりましたらワーキンググループ1のほうの時間を少しいただいて、皆さんと少しお話ができればいいなと思っておりますので、そちらのほうで遺憾なく御意見を頂戴いたしたいと思います。

それでは、アスリート委員会は次に進ませていただきたいと思います。

議題8になります、最後です。レガシー・レポーティング・フレームワークについて。それでは最後ですが、こちらも事務局のほうから報告をお願いいたします。

○藤田部長　それでは、これは議題というより、情報提供のレベルであります。

レガシー・レポーティング・フレームワークはなんぞやといいますと、この70ページの下のほうにレガシー・レポーティング・フレームワークとは、大会が開催都市に及ぼすメリットを把握することを目的とした枠組みのことということになっております。実は、これが行われるのは東京大会が初めてでありまして、IOCの方針に基づいて今後、要は開催都市に及ぼすメリットをどう把握するかということを今後作業としてやっていくということであります。こういうOGI調査といったようなものを今後実施していきます。

もしかしたら、アスリートの皆さんに御協力をいただくこともあろうかと思いますので、ここで一旦、情報提供をさせていただきたいというふうに思いましたので、本日、御説明させていただきました。内容はまた後で御覧をいただければと思います。

以上であります。

○高橋委員長　ありがとうございました。

何か今の説明に御意見がある方はいらっしゃるでしょうか。

それでは、こちらのほうは、またこれからいろいろ決まっていくことだと思いますので、またこの後の報告のほうをよろしくお願いいたします。

以上で予定しておりました議事は全て終了いたしました。もし言い足りないことがございましたら、この後のワーキンググループ1のほうでよろしくお願いします。

それでは最後に、遠藤会長代行から一言お願いいたします。

○遠藤会長代行　どうも皆さんありがとう、ごめんなさい、声が。いつも言い声なんですが、ハスキーですみません。ありがとうございました。

多分、委員長もそうでしょうし、田口さんも10回連続、私個人の気持ちとしては、開会式のチケットを何十枚かあげたい、気持ちだけはそう思っていますんで。感謝を申し上げます。

また、審査のときもそうでしたし、またフラッグツアーとか、いろんな組織委員会の催しで皆さんに御出席いただいて、そして機運醸成していただいていると、そういう意味で感謝を申し上げたいと思います。

やっぱり、いろんなところに行って、高橋さん来たよねと、一緒にちょっと走ったとか、高橋さんとこうやったとか、そういうことがあると、子どもたちもそうですし、別に子どもだけじゃなくて一般の社会人の皆様方も大変元気が出てきますし、それに伴ってスポーツのよさを楽しんだり、同時にこうしてオリンピック・パラリンピックに関心を持っても

らう、そういう意味では大変、皆さんの活動に感謝をしたいと思います。

招致活動からそうだったんですが、いろんなアスリートの皆さんと話していると、やっぱり視点が違うなと思うことがあります。私もスポーツ施策をやっているんですが、皆さんのように直接のアスリートではありませんから、いざオリンピックに参加した人から見ると、こういう施設、こういうふうになったほうがいいよねとか、フィールドもこういう使い方をしたほうがいいねとか、やっぱり視点が違うなと。そういう意味でも皆さん方の意見は大変ありがたいと思いますし、こうした議論、10回も重ねてきたわけですから、今もお伺いして、旗がどうだとか、あるいは表彰式もこっちから行ったほうがいいだとかありましたし、そういう意味では大変、皆さんの御努力に感謝します。またこれからも、あと1年、実際は532日だっけかな、パラまで564日で、終わるまでぜひよろしくお願いしたいと思いますし、終わるまでというよりも、何回も出てきますが、レガシーが大事ですから、この運動会などもぜひそのレガシーとして継続していきたい。

さらに私は、今、アジアの子どもたちに学校をつくるというので、アジアにずっと学校をつくっているんですが、運動会がないんです。まず体育の授業がありません。ですから、日本のこういう運動会というのはすばらしい文化だなと思っていますし、学校をつくった贈呈式のときに必ず綱引きをするんです。そうすると、最初は子どもたちだけですけど、そのうち村みんな集まってきて、100人ぐらいで引っ張り合いを何回もやるんです。やっぱり、スポーツの持つ力は大きいです。そういう一体感をつくっていくという意味でも、健康ということだけではなくて、まさにその地域をつくっていく、地域の元気をつくるという意味でもスポーツの貢献は大きいなと思いますので、ぜひ皆さんになお一層の力添えをいただきたい。

最後に、去年いろんな事件があって、残念ながら、どうしようかと思って、今度は新しくインテグリティの検討のチームをつくり、ガバナンスコードというのを国がつくって、それを各競技団体に説明、公表してもらうようにしましたし、国とJSCとそれから……、統括団体で円卓会議をつくって、そしてこのインテグリティをしっかりやろうというふうな形にさせてもらいました。

それともう一つはアンチ・ドーピング。これも去年の春だったかな、私は提出者になりましたが、議員立法で法律を通すこといたしました。

やっぱり、こうしたインテグリティやドーピングをしっかりやっていくことも日本という国が世界の信頼を得て、オリンピック・パラリンピックが開催できますから、やっぱり

今日おいでの、大変影響力がある皆さん方ですから、ぜひ、そんな思いも皆さんにお伝えいただければありがたいなと思っています。

ぜひこれからも皆さんの力で、すばらしい大会になれるように、それまでに私も声を治しますから、ぜひ御協力をお願いして、御礼の御挨拶にさせていただきます。どうもありました。

（拍手）

○高橋委員長　どうもありがとうございました。

スポーツには力があるということで、ぜひ皆さん、今の言葉を励みに頑張っていきましょう。

それでは、最後に事務局から、事務連絡のほどよろしくお願いいたします。

○藤田部長　すみません。ちょっと時間を過ぎておりますけれども、何点か。

本日の追加の御意見について、もしございましたら事務局のほうに御連絡をいただければと思います。

あと、本日の資料及び議事録につきましては、後日、組織委員会のホームページで公開をさせていただきたいというふうに思っております。

また、次回のアスリート委員会ですが、また日時等、別途御連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

あと、プレスブリーフィングにつきましては、本日は記者の皆様に最後まで傍聴いただいておりますので、プレスへのブリーフィングは行いません。

最後に、すみません。法被なんですけど、席のほうに置いておいてください。

以上で終わります。

本日はどうもありがとうございました。

○高橋委員長　どうもありがとうございました。

それでは、少し時間を過ぎてしまいましたが、第10回アスリート委員会はこれで終了とさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。